

英国助成機関の大胆な挑戦

Fixing a grant system in crisis

RICHARD VAN NOORDEN AND GEOFF BRUMFIEL 2010年3月25日 Vol. 464 (474-475)
www.nature.com/news/2010/100324/full/464474a.html

英国工学・物理科学研究会議 (EPSRC) の新しい厳罰主義が目ざされている。
過去2年間、申請書3件が評価ランキングの下位半分に入り、
かつ全申請数の合格率が25%以下の研究者は、ブラックリストに載せられ、
1年間、たった1件しか助成申請を出せなくなった。

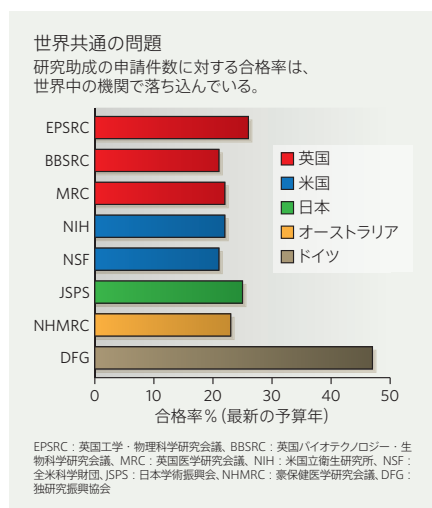
1月21日、ノッティンガム大学の物理学者 Philip Moriarty は、EPSRC (英国工学・物理科学研究会議) から恐るべきEメールを受け取った。彼は「複数不合格申請者」に特定され、大学の研究担当者にも通知されたのだ。EPSRC の新ルールは4月1日から完全実施され、Moriarty はいま「1年間の冷却期間」に追い込まれている。この間、EPSRCに出せる申請書は1件だけとなる。これまでは何件でも提出できたのに、である。

EPSRC は物理分野で英国最大の研究費助成機関。2009～2010年の予算は815ポンド (1700億円) に上る。新厳罰制度の犠牲者はMoriartyを含む140人だけではない。「こんな馬鹿げた制度を支持する人なんていませんよ」と同じ大学の Amaria Patanè は怒りをぶちまける。彼女はもっと悪い不合格者リスト450人の1人にリストアップされ、同じく「1年間の冷却期間」入りとなった。

EPSRC の新政策は、科学界にかかる過剰負荷を緩和する対策の1つだ。助成申請件数に対する合格率は、2000年の43%から2008年の26%まで落ちているし、毎年5000人の審査員 (ピアレビューアー) を探さねばならない状況もある。EPSRC はまた、一度不合格になった申請書の再提出拒否も始めている。研究担当部長 Clive Hayter によると、この対策は功を奏しているようで、申請数が昨年比で35%も減った。

申請数が増え合格率が急落しているのは世界共通だ。米国、ヨーロッパ、アジアの助成機関はEPSRCの実験を、^{かたず}固唾をのんで見守っている。彼らも同じ悩みを抱えているからだ。NSF (全米科学財団) の匿名担当者はこう打ち明ける。「初めはやりすぎだとみていましたが、今では、私たちが検討を始めてよいと考えています」。

「科学界の重荷を減らさなければなりません。目的は、研究者の行動を変えることなのです」と Hayter。変化を促すため、EPSRC は2009年、次の2つの条件を満たす研究者は1年間、申請を禁止すると宣言した。①代表申請者として出した3テーマ以上が、2年間のランキングで下位半分に入っていること、②全申請数の合格率が25%以下である



こと。この「三振、即退場」の方針は、科学者の激しい抵抗に遭った。その結果、実施時期が延期され、年1件の申請は許可するという緩い条件に変えて実行されることになったわけだ (Nature 2009年5月7日号20ページ)。山のような申請が止まり、合格率が30～40%に回復すれば「基準を緩和したい」と Hayter はいう。

各国の助成機関も同様の課題に向き合っている。NIH (メリーランド州ベセスダ) では、2008年の合格率は22%だった。日本学術振興会 (JSPS) の科研費の合格率は25%である。一方、ドイツの主要助成機関であるDFGは47%の合格率を誇る。ただドイツの場合、資金の多くが大学から直接支給されている。

問題に対処するため、これらの機関は英国よりも平等主義的の方策を採っている。例えば日本では、1件当たりの額を減らして対応している。しかし、日本学術会議の金澤一郎会長は「このような対策は、申請書に約束した内容の実行可能性を危うくする」と指摘する。

米国とドイツでは、既に申請書類を簡略化する決定がなされている。書類が簡潔になれば、担当者や審査員の負担が軽減するからだ。DFGは2月、論文リストを大胆に制限する方針を打ち出した (Nature 2010年2月25日号1009ページ)。しかし、簡略化は逆効果で、申請数がどんどん増える危険性がある、とNIH 公開研究担当部長の Sally Rockey は指摘する。

EPSRC の厳しい新ルールに対して、昨年みられたような激しい英国科学者の抵抗は今のところ現れておらず、大半の研究者は静観しているようにみえる。

しかし、何人かは既に新システムからの離脱を決めている。エリオット・ワット大学 (英国エジンバラ) の化学物理学者 Martin McCoustra もブラックリスト入りとなった1人だが、彼は「EPSRCからの審査依頼は今後一切拒否する」といっている。

(翻訳再構成: 編集部)